

高井昌史の

# 教育改革対談

紀伊國屋書店社長・高井昌史が、全国の有力  
学校法人トップと教育の未来を語るシリーズ

第3回  
同志社

学校法人  
同志社

同志社  
大学



学校法人同志社総長・理事長

## 八田英二

はった・えいじ\*1949年生まれ。同志社大学経済学  
研究科修士課程修了後、'77年米国カリフォルニア  
大学パークレー校大学院経済学Ph.D.コース修了。  
経済学部長、同志社大学長、学校法人同志社理事  
長を歴任し、2017年4月より同志社総長・理事長。  
学外においては、政府や自治体の各種委員や公益  
財団法人日本高等学校野球連盟会長などを務める。

紀伊國屋書店会長兼社長

## 高井昌史

たかい・まさし\*1947年東京都生まれ。成蹊大学法  
学部政治学科卒業。'71年株式会社紀伊國屋書店  
に入社。'93年取締役。'99年常務取締役、2004年  
専務取締役、'06年副社長を経て、'08年代表取締  
役社長に就任。'15年より会長を兼務。著書・編書  
に「本の力」「日本人が忘れてはいけないこと 国の  
礎は教育にあり」(ともにPHP研究所刊)がある。

# 新島襄が唱えた 「良心教育」で 人格形成に寄与する

明治六大教育家の一人である新島襄にいしまじょうによって創立された伝統校、同志社大学。開校以来、キリスト教主義精神にもとづく人格形成を貫いている。少子化による学生減少が著しくなってきた今、この教育方針をどう活かし、発展させようとしているのかを八田英二総長・理事長に聞いた。

写真撮影：白岩貞昭 写真提供：同志社大学 (P47、49)

## 「知」よりもまず 「人」をつくる

**高井** 同志社といえど、創立者の新島襄先生がまず思い浮かびます。新島先生が打ち立てられた「キリスト教主義精神」「良心教育」という建学の精神は脈々と受け継がれていますね。

**八田** はい。同志社は二〇二五年に創立百五十周年を迎えますが、建学の精神は、私たち教職員の共通意識としてしっかりと根付いています。

新島襄は、大学には二つの大きな社会的使命があると言っています。一つは「専門知識を教えること」、もう一つは「人格形成を行なうこと」。なかでも重視しているのが人格形成です。

専門知識は、人類の幸福のため、社会のため、自分の将来のために必要です。ただし学び得た知識を世に活かす時、品性が備わっていないければ意味がありません。

人間形成を行なうには、何らかの価値判断基準が必要です。そこで新島襄は、キリスト教主義の中で学生の人格形成を手助けしよう

と考えたのでしょう。

新島は、日本の未来を切り拓きたいという志を胸に、単身アメリカに渡り、三つの学校を卒業しています。そのうちの二つ、アーモスト大学のリベラルアーツ（生きるために必要な一般教養）に大きな影響を受け、人として備えておくべきことをキリスト教主義精神によって育もうとしました。これが「良心教育」であり、同志社大学の最大の強みです。

**高井** 確かに大きな強みですね。それにしても不思議なのは、同志社大学のキャンパスが位置しているのは、すぐそばに京都御所もある今出川いまでがわだということ。長く京都の中心だったこの場所に、よくぞキリスト教主義精神の大学をつくられたなど、今さらながら驚いています。

**八田** それには新島襄の妻である新島八重が少なからずかわっています。同志社大学のある土地には、かつて薩摩藩邸があったのですが、会津藩士であり八重の兄である山本覚馬が、幕末時、ここに幽閉されていました。そして明治維新後、才覚を認められて京都府

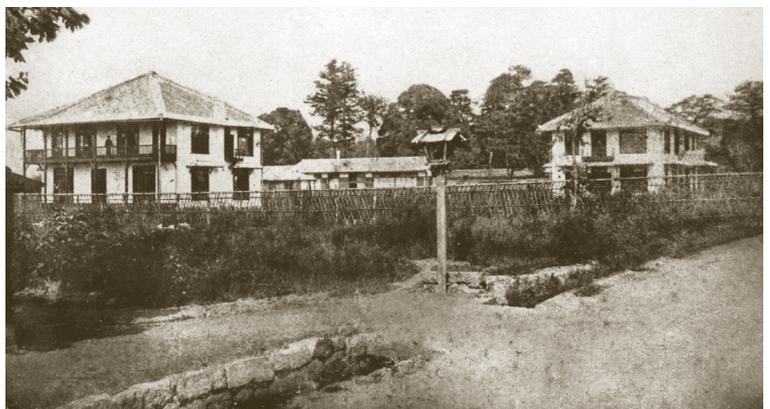
の顧問となった時、この土地を、学校用地として新島襄に譲渡したことが、同志社大学がここにある所以ゆえんです。

## 「世界」と「女性活躍」に 早くから着目

**八田** 同志社大学には「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの教育理念があります。キリスト教主義とは、先ほどお話しした考え方です。「自由主義」とは、自由放任ではなく、自分を律して責任を持つからこそ自由でできるとの考え方です。そして「国際主義」とは、グローバルな視野



結婚当時の新島襄と八重



同志社大学の前身、同志社英学校最初の校舎

を持った人物を率先して育てるということです。

同志社大学は、グローバルという言葉がまだ世の中に浸透する前から、そのような人物の育成に取り組んできました。今では、グローバル地域文化学部、グローバル・コミュニケーション学部を設け、留学を条件にしています。また、大学院にはグローバル・スタディーズ研究科があり、中東やトルコの問題なども研究しています。

グローバル教育というと、とかく語学教育を連想しがちですが、語学だけではなく、世界的視野を膨らませたものの見方ができるようにするのが教育の本質です。

**高井** グローバル教育とともに、新島八重さんが手がけられた女子教育も、特長の一つですよね。同志社女子大学にも長い歴史があります。

**八田** アメリカで学んだ新島襄は、女子教育の重要性を早くから認識していました。ですから、帰国後間もなく、妻である八重とともに、同志社女子大学の前身である女子塾を創立しています。

新島襄は、女性がどうだ、男性

がどうだということではなく、近代化していく日本に合うような市民、いわゆる「近代市民」をつくりたいとの考えを持っていました。

そういう意味では、彼の中には男女を分けるといふ発想はなかったかもしれない。しかし、当時は男女共学など考えられない時代でしたから、女子だけを集めた女子塾をつくったのだと思います。

**高井** 今でこそ女性活躍社会と言われていますが、ずっと以前から女性活躍への思いを抱いていらっ

しかったのですね。  
**八田** 歴史ある大学の中で、一つの学校法人に男女共学と女子大が共存しているケースはあまり多くありません。やはり、女子教育に力を注いだ新島八重の影響は大きいと思います。

私は、現在のそのような男女共同参画社会だからこそ、女子教育を行なう女子大が必要だと考えています。男女平等とはいえ、まだまだ女性には社会的に弱い立場に置かれることがあります。同志社女子大学が果たしてきた役割を考えると、これからも女子教育は必要だと考え

えます。

## 経営と教学は車の両輪

**高井** 日本の大学進学率は五〇パーセント強で、台湾や韓国と比べると低い数値です。もつと進学率を上げるべきだと思うのですが。

**八田** おっしゃる通りです。しかし、学生を集めやすい東京二三区では、大学の施設がなかなか認められない状況にあります。その代わりに、これから新設が認められていくのは、即戦力となる職業人を養成する「専門職大学」です。

私たちの大学にとつても強力なライバル校になると予測しています。保護者の方々は、お子様の就職を見据えて進学先を考えます。専門職大学のような学校に魅力を感じる人もいるでしょう。

しかし、大学は、専門知識を学ぶだけではなく、人格を形成し社会に人を送り出す場でもあることを忘れてはなりません。従来の大学と専門職大学がうまく共存しながら進学率を高めていければいいのかもしれない。

**高井** 入学後、すぐに就職を目指すのではなく、まずは本を読んだ

り教養を高めたりする学びや研究も大切ということですね。

**八田** そうです。ただ、大学に対する社会の要請はますます増えていますので、建学の精神を高く掲げながら、あらゆる面で社会や時代の要請に応える「不易流行」を、大学経営の基本的な考え方としていきます。

**高井** 八田先生は、大学経営の基礎は財務体質にあり、とおっしゃっていますね。

**八田** 私は、大学を動かす車輪は「経営」と「教学」だと考えています。この両輪が同じ方向に向かつて、同じスピードで回転しているのが理想の姿。しっかりとした教学があり、ある程度の収入があるからこそ、新たな教育改革を行なうことができます。

多くの私立大学は、八割が学費収入、一割が助成金、残り一割が入試検定料や寄付金という財務状況にあります。これから先、少子化によって学生が減ることを考えれば、学費収入に多くを期待することはできません。だとするならば、寄付金などの外部資金をどう調達するかが重要になってきます。



大学選手権三連覇など輝かしい歴史を誇るラグビー部



同志社大学と立命館大学野球部が対戦する伝統の同立戦。毎年多くの学生が駆けつける

**高井** 同志社大学の場合は、財界にも卒業生がたくさんいらっしゃいます。そうした方々の力を借りることについては、いかがでしょうか。

**八田** 同志社大学には、三十数万人に及ぶ卒業生がいます。

学校法人にとつてのステークホルダーは、学生、保護者、教職員だけではなくありません。卒業生もまたステークホルダーであり、母校を最も思ってくださいる方々なのです。卒業生の要望を経営面にも教員面にも活かすとともに、様々な

サポートもしていただけるように努めることが、総長そして理事長としての私の役割ではないかと思っています。

### 京都は広大なキャンパス

**高井** 京都には、大学同士が手を結ぶ連携組織「大学コンソーシアム京都」があります。

**八田** 京都市は小さな街であるにもかかわらず、たくさんの大学や短大が集まっています。しかも、単に集まっているわけではなく、

京都の文化や歴史といった基盤を共有する「運命共同体」という意識を持っています。そういう意味では、京都の大学で学ぶのと他地域の大学で学ぶのとでは、少し意味合いが違っていると考えています。

私は、京都の街自体が大学のキャンパスだと考えています。つまり、京都そのものが教科書。華道にしても茶道にしても、本物の伝統文化がここにはあります。そんな京都に同志社大学があることも大きな強みだととらえています。

**高井** 京都には日本文化の担い手もたくさんいますからね。その中に、同志社大学の卒業生も大勢いらっしゃるかと思います。

**八田** そうした方々の力も借りながら、同志社として新しい方向性を確立していきたいと考えています。特に、六十歳を越えて時間的に余裕のできた卒業生の皆様には、様々なかたちでキャンパスに入っていたいただき、お力添えをいただきたいですね。

**高井** 日本文化はもちろん、スポーツの世界で活躍している卒業生もたくさんいらっしゃいますよね。スポーツについては、どのように

考えておられますか。

**八田** スポーツは、人格を形成する上で、非常に重要な役割を果たすと思っています。スポーツを通じて、社会的な協調性、独立心などを育むことができるからです。学生スポーツをはじめ、サークル活動に積極的に力を入れてきたのもそのためです。

人格形成は、大学の教室だけでできるものではありません。どんな本を読んだか、どんな先輩や後輩と付き合ったか、極端なことを言えば、誰と何を食べたかも人格形成に大きな影響を与えます。そうした経験は、むしろサークル活動やスポーツから得られる部分が大きいです。学生には大学と自宅を往復するだけでなく、もっとたくさんの人とかかわってほしいのです。

### 教育者真利に尽きる 高野連会長就任

**高井** 八田先生は二〇一五年、高野連（日本高等学校野球連盟）会長に就任されていますね。

**八田** 野球を通じた高校生の人形成にひと役買いたいの思いからお受けしました。高校野球は、

面白い試合を観客に見せるという商業主義的なスポーツではありません。全国の最高峰を目指し、選手たちは練習に励むわけですが、その中で築かれる人間関係は、高校生の精神的な成長に大きな影響を与えます。

前任の会長であり、早稲田大学の総長だった奥島孝康先生が、「高校野球は教育の一環であり、その会長職に就任することは教育者冥利に尽きる」とおっしゃいました。その通りだと思います。

**高井** 夏の甲子園は今年、記念すべき一〇〇回目を迎えます。最も盛り上がる時期に会長を務められるわけですね。

**八田** そうですね。難しい問題や課題は、すでに奥島先生をはじめとする歴代の会長が解決してくださっています。私はそれを現代風にアレンジさせていただきました。

例えば、女子部員・マネージャーの甲子園での練習参加。女子が球場で練習に加わるなんておかしい、という考え方もありましたが、そんな時代でもありませんので許可させていただきました。女性理事に入っていたいただいたのも、高野



連の運営に女性の目線を入れることが重要だと考えたからです。

そのほか、延長一三回からはタイムブレークを導入することも決めました。タイムブレーク制とは、ノーアウト走者一、二塁の状態から回を始めるというルール。これによって試合が早く終わるため、投手や選手たちの体力的負担を減らせます。

夢舞台の甲子園なんだから力尽きるまで投げさせてやれ、という声も根強くありますが、これにどこかでストップをかけて球児の負担を軽減するのも私たちの役割だと思っています。

**高井** 子供たちがバックネット裏で試合を見ることができ「ドリ

ームシート」もいいですね。

**八田** 野球少年・少女の小中学生たちに、野球を身近で見てもらいたいと思って導入しました。

子供時代に野球を経験した人に「尊敬する人物は誰ですか？」と聞くと、「監督」という答えが最も多く返ってきます。名将と呼ばれる監督は、人間的にも優れている人が多い。野球の指導力だけでなく人間力も兼ね備えていないと、やはり子供たちについてはいきません。

私は、大学も同じだと思うのです。素晴らしい設備や教師陣だけでなく、学生を育てようとする大学全体の雰囲気、いわば「大学力」が不可欠だと思います。

## 多様なバックグラウンドが 大学に活力をもたらす

**高井** 同志社大学は、幼稚園から大学までの一貫教育体制を整えられています。同志社の一貫教育にはどのような特徴があるのでしょうか。

**八田** 学校法人同志社は、幼稚園から大学まで全一四校を有する総合学園に発展しています。そのすべてに建学の精神が生きていますし、良心教育の考え方が共有されています。

総合学園というと、学校が寄り集まっているイメージがあるかもしれませんが、同志社の場合は、単に集まっているだけでなく、教育の根本のところまでつながっています。どの学校に入ろうとも、同じ教育の理念のもと、学生たちは育っていきます。

また、幼稚園から大学まで一貫して同志社という一団だけでなく、大学から同志社に入学する一団が存在するのも、学校全体に大きな活力をもたらしています。同志社大学には一学年につき六〇〇〇人の学生がいますが、一貫教育で入

学してきた学生は二割程度。あと  
の八割は同志社以外の小中高を  
経て入学してきます。

私は、これくらいの比率でちよ  
うどよいと思っています。多様な  
バックグラウンドを持った人が集  
まる社会の縮図のような環境で、  
良心教育のもとぶつかり合いなが  
ら学ぶ。これによって摩擦熱が起  
き、やがてパワーとなって学生生  
活を豊かにしています。学生にと  
って理想的ではないかと考えてい  
ます。

**高井** 二〇二〇年には、入試改革  
によって、入試制度が大きく変わ  
ります。どのような入試制度で学  
生を募ろうとお考えですか。

**八田** 繰り返しになりますが、同  
志社大学は、いろいろなバックグ  
ラウンドを持った人が集まる大学  
です。均質な学生だけを集めて教  
育を行なう大学ではありません。

多様な人にたくさん来ていた  
くためには、やはり入試制度も多  
様でなくてはなりません。海外か  
らの学生はもちろん、様々な年齢  
の方や社会人も含めてきていた  
きたいと考えています。

私としては「同志社大学に入り

たい」と熱望する学生にきていた  
だきたいのです。入りたいのに偏  
差値の問題で入学できない学生を、  
どう救い上げていくか。偏差値以  
外の能力で判定する推薦入試、A  
O入試の充実などを考えていくべ  
きでしょうね。

### 同志社ブランドを 社会に発信したい

**八田** 総長としての私の最大の使  
命は、同志社というブランドをも  
っと高めることだと思っています。  
メディアを利用して同志社の学び  
を発信することはもちろんですが、  
卒業生に広報役を務めていただき、  
口コミで同志社のよさを社会に広  
めてほしいと考えています。

そのために私たち学校側は、卒  
業生の皆さんに「同志社はいまこ  
んな取り組みをしている。こんな  
教育を行なっている」という情報  
を提供する必要があります。そし  
てゆくゆくは卒業生のお子様と同  
志社に入学する流れをつくりたい。

「自分の子供にも同志社教育を受  
けさせたい」という卒業生が増え  
ることが、教師陣にとって最も嬉  
しいことですし、それが社会的な  
評価でもあると考えています。

**高井** 東京や関東からも学生にき  
ていただきたいですね。

**八田** そうですね。同志社大学に  
入学しても、卒業すれば大半は東  
京に就職するわけですから、学生  
時代の四年間くらい、京都で過ご

してみてはいかがでしょうか、と  
呼びかけたい。京都は学生を「学  
生さん」と呼んで、非常に大切に  
してくれる街です。ここで過ごす  
時間は、とても豊かだと思います。

**高井** 最後に、同志社のこれから  
のビジョンをお聞かせください。

**八田** やはり、建学の精神をさら  
に強調したいですね。そして、社  
会の要請に応じて変えるべきこと  
ろは変える。そのことを、卒業生  
ネットワークを通じて、社会の  
方々にもっと伝えたいと思ってい  
ます。

また、同志社には、伝統ある今  
出川と、京都の中心部から少し離  
れたところに京田辺キャンパス  
があります。京田辺キャンパスに  
は広大な敷地がありますので、こ  
こをどう活用し、社会の要請に応  
えていくか。今後はそれを問われ  
ると思います。

**高井** 特に同志社は教師陣も素晴  
らしいですから、PRの機会を増  
やしていけば、さらに学生や社会  
からの関心は高まるのではないで  
しょうか。本日はありがとうございました。

(取材・構成 高野朋美) 衆

